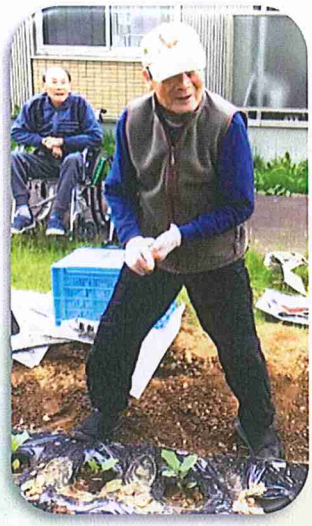
回　覧　令和８年７月発行　第１４４号

喜らめき銀河タイムス

きもべつ喜らめきの郷・るすつ銀河の杜

社会福祉法人渓仁会　経営理念
一．安心・安全
二．信頼・満足
三．地域に貢献



いつまでも、あなたらしく

「自分らしさって何だろう」。誰もが一度は考えたことがあるのではないでしょうか。得意なことがあったり、苦手なことがあったり、これまでの人生の中で身につけてきたことや考え方、さまざまなことが「自分らしさ」につながります。例えばできていたことができなくなった時に、少し寂しさや不安を感じることもあるかもしれません。

結晶性知能という宝石

人の記憶や力には、いくつかの種類があります。その中でも、自転車の乗り方や裁縫技術のように、長い時間をかけて身についたものを「手続き的記憶」といいます。こうした経験の積み重ねは「結晶性知能」と呼ばれ、年齢の影響を受けにくいと言われています。

たとえ物忘れが増えたり、新しいことを覚えるのが難しくなったりしても、結晶性知能は静かに、そして確かに、まるで長い年月をかけて磨いてきた宝石のように、「自分らしさ」を輝かせるのです。

苗植えの達人たち

喜らめきの郷では、毎年、畑の苗植えを行っています。今年も多くの利用者の方々が参加され、その手際の良さに思わず見入ってしまう場面がありました。土に触れ、苗を扱うその動きはとても自然で、長年培ってきた経験の深さを感じさせてくれます。

ときには、苗の種類によって「穴の間隔はもう少し広いほうがいいよ」と、職員に教えてくださることもあり、その知識や経験に自然と頭が下がります。

私たちはこれからも、その方が大切にしてきた力や経験に目を向けながら、「いつまでも、その人らしく」過ごしていただけるようお手伝いをしてまいります。

ひとりと向きあう。
社会福祉法人 渓仁会

スマイルwith フラワーセンター

るすつの苗植えは裏面にて

認知症カフェ・きらり活動レポ

定期開催３回目、テーマは「意思決定支援。認知症の方の気持ちを汲み取る際に大事な視点について皆様と考えました。参加者様からは「良い機会だった」との感想も頂きました。

次回：7月21日（火）午前10時～。喜らめきの郷にて。
テーマ（仮）：施設職員が語る認知症ケアに関する事例
申し込み不要（当日参加大歓迎！）・コーヒー代100円

きもべつ喜らめきの郷　るすつ銀河の杜
発行責任者
施設長　木下　雄一

将来を担う次の世代の皆さまへ。

～介護実習生の受け入れに携わる～

近年、若い世代の人口が減少し、地域の中で働く人の確保が難しくなっています。その影響はさまざまな仕事に広がり、人手不足が身近な課題となっています。特に介護の分野では、高齢化が進む中で、支え手の不足がより感じられるようになってきました。現場では、一人ひとりの頑張りに支えられている状況です。これからも安心して暮らせる地域づくりのために、介護の仕事の魅力を伝え、仲間を増やしていくことが大切ですね。//高校生が介護実習に来てくれました。//

ご入居者が冬の間大事に育てた植物を実習生と一緒に植え替えしました。

ボードゲームで会話も広がります。

留寿都には、近隣高校に介護科があるという大きな魅力があります。はじめて介護にふれる若い世代が、身近な地域で学び、成長できる環境が整っています。実際の現場とつながりながら学ぶことで、安心して介護の仕事に一歩踏み出すことができます。地域で学び、地域で支える人材が育つことは、これからのまちづくりにもつながっていきます。介護の未来を担う人材が育つまちとして、留寿都村の強みを大切にしていきたいですね。

/花いっぱい運動花壇にステキな花を植えていただきました/

言葉だけじゃない？コミュニケーションの大切なポイント

私たちのコミュニケーションは、『言葉（バーバル）』と『言葉以外（ノンバーバル）』の 2 つで成り立っています。たとえば、やさしい言葉をかけても表情がこわばっていると、相手は不安を感じてしまいます。
反対に、笑顔や優しい声かけ、ゆっくりとした動作があるだけで安心していただけることも多くあります。介護の現場では特に、表情・声のトーン・しぐさや距離感といったノンバーバルコミュニケーションが大きな役割を持ちます。言葉と態度をそろえることで、より安心できる関係づくりにつながります。私たちはこれからも、心のこもったコミュニケーションを大切にしていきます。

コミュニケーションのコツ

①笑顔で目線を合わせる
②ゆっくり話す
③相手のペースに合わせる

【接遇意識を高める標語。目線を合わせ 100％敬語。】